

平成30年度
第2回西脇市総合教育会議
議事録

平成30年12月26日

西脇市教育委員会

西脇市総合教育会議議事録

1 開催日時

平成30年12月26日（水）午後1時15分～午後2時50分

2 開催場所

西脇市生涯学習まちづくりセンター 会議室1

3 出席者

(1) 市長及び教育委員会

市長	片山象三	教育長	笹倉邦好
教育委員	藤原久和	教育委員	内橋和彦
教育委員	岩本理香	教育委員	依藤三枝子

(2) 事務局

都市経営部長	筒井研策
教育部長	森脇達也
教育委員会参事	遠藤一博
教育総務課長	鈴木成幸
学校給食センター所長	山下由美
学校教育課長	永井寿幸
学校教育課主幹兼教育研究室長	松本亨
幼保連携課長	大隅誠一
幼児教育センター長	橋本恭代
人権教育室長	柳川瀬輝彦
生涯学習課長	山本昇司
スポーツ振興室長	西村寿之
図書館長	楠本昌信

4 傍聴者

なし

5 会議の概要

- (1) 市長あいさつ
- (2) 協議・調整事項

- ア 幼保交流研修の実施状況等について
 - イ 第2次西脇市総合計画及び第3期西脇市教育振興基本計画について
 - ウ 平成31年度教育委員会主要施策の概要について
- (3) その他

○事務局

本日は大変お忙しい中、お集まりいただきましてありがとうございます。定刻となりましたので、ただ今から、平成30年度第2回西脇市総合教育会議を開会いたします。それでは、開会に当たりまして市長からごあいさつをいただきます。よろしく願いいたします。

◎市長

年末のお忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。また、平素より、教育委員の皆様方には、本市教育行政の推進に格別のご支援、ご尽力を賜り、心から感謝を申し上げます。ありがとうございます。6月に開催いたしました今年度の第1回総合教育会議では、教育委員の皆様方から、様々なご意見をいただき、また、議論を通じ、教育行政における課題、これまでの取組などについて、共通認識を深めることができたと感じております。本日の総合教育会議では、「幼保交流研修の実施状況等について」、「第2次西脇市総合計画及び第3期西脇市教育振興基本計画について」及び「平成31年度教育委員会主要施策の概要について」協議をお願いしたいと思っております。委員の皆様方の忌憚のないご意見を賜り、活発な議論ができればと考えております。よろしく願いいたします。

○事務局

ありがとうございました。早速ですが、このあと議事に移らせていただきますが、会議の議長につきましては「西脇市総合教育会議運営要綱」に基づきまして、片山市長をお願いしたいと思います。市長よろしく願いいたします。

◎市長

それでは、まず、会議録署名委員につきまして、私から指名をさせていただきます。藤原委員、依藤委員、よろしく申し上げます。議事録の署名をもって「運営要綱」第5項第2号の議事録の承認とみなしますのでよろしく願いいたします。

◎市長

引き続き、次第2の協議・調整事項(1)、「幼保交流研修の実施状況について」を事務局から説明させていただきます。

担当課長から説明をお願いします。

————— [説 明…記述省略] —————

◎市長

確認ですが、幼保交流研修会の1と5の研修でキャリアアップ研修の参加者がどちらも26人となっていますが、アンケート回答している職員16人も含まれているのでしょうか。また、その16人は、公開保育を行ったつまこども園の職員さんですか。

○事務局

そのとおりです。

◎市長

アンケートでは、幼児教育センターの研修訪問（助言）はどうでしたかという問いで、高い評価をいただいています。本日は、幼児教育センターの橋本センター長が出席となっていますので、この評価の感想をお聞かせください。

○事務局

幼児教育センターからつまこども園への訪問を昨年度から始めています。昨年度は各認定こども園へ月2回程度、適宜、訪問していましたが、今年度からは、計画的に各認定こども園へ月1回は必ず訪問し、公開保育を担当する認定こども園へは、公開保育前の1か月前から週1回は訪問することとしています。今年度は、つまこども園が公開保育の実施園となっていることから助言を多く求められる中で、指導案を作成してもらっています。また、子どもたちが全員集まる午前9時半から午後3時か3時半まで、つまこども園に滞在しています。午前中は、子どもたちの活動の様子を見せてもらい、その後、担任の先生が主任の先生や補助の先生と交代してもらって、担任の先生と話をする時間を作ってもらい、直接、その日の保育のことや子どもたちの様子などを話し、その課題や今後の保育についての助言や意見交換を重ねてきました。その対応がすごく大きかったのではないかと感じています。つまこども園の先生方は、公開保育に対して意識を高く持って取り組まれており、実は、先生方から公開保育が終わった後も勉強していかねばならないということで、幼児教育センターや指導いただいた瀧川先生に対しても来年度も来てもらって改善していきたいなど、積極的な姿勢があり熱心に取り組まれていると感じました。

◎市長

公開保育を行っているのは、つまこども園だけですか。

○事務局

今年度は、つまこども園で、昨年度は、日野こども園でした。来年度はかすがこども園に取り組んでいただく予定で、1年度に1園の取組で全園をまわる予定としています。

◎市長

昨年度の日野こども園と今年度のつまこども園との熱心度等の違いは感じられましたか。

○事務局

それぞれ熱心に取り組まれています。ただ、日野こども園は、公開保育を行うとか大学教授の現場指導を仰ぐとかは、初めての取組ということだったこともあり、また、私たちも初めてなので、どのような入り方でどう進めてよいかなど、戸惑いの中での活動でしたので、十分に伝え

られたかどうかはわからないところがあると感じています。今年度は、2回目となりますので、昨年度の課題はクリアしながらできたのではないかと考えています。それぞれの園の先生方の取り組む姿勢は、非常に熱心であったと思っています。

◎市長

幼児教育センターの方も技術があがったと考えてもいいのでしょうか。

○事務局

一緒に取り組んでいく中で、互いに技術力などが高まっていったと考えています。

◎市長

委員の皆さんの方から何かご意見やご質問はありませんでしょうか。

○教育長

アンケートの設問で「保育」と「幼児教育」と使い分けてあるが、意図的にしているのか。

○事務局

意図的に使い分けています。3番の設問では「幼児教育」は意図的に使っていますが、他の設問での「保育」は、国公立の幼稚園においても「公開保育」とされており「公開教育・保育」とは使わないことから「保育」、「公開保育」としています。ただ、3番目の設問の「幼児教育」としておりますのは、現在、3歳、4歳、5歳の教育に取り組んでいますので理解を深めてもらいたいとの思いからあえて「幼児教育」としています。

○教育長

今後、他の認定こども園も公開保育を行っていくが、同じようにアンケートを実施するのか。

○事務局

同様に、行っていききたいと考えています。昨年度は、初めてであったので、取ることができなかつたのが、残念に思っています。公開保育を行ったことで先生方自身の振り返りもできることから、実施していききたいと思っています。この内容や取り方でよいかどうか、もしよろしければ、ご意見をいただけたらありがたいです。

○教育長

立場上においても、とても関心がある。最近、認定こども園の中での3歳から5歳までの教育について尋ねられることが多くなってきた。「保育現場での幼児教育はどうですか」と。今後、市としても、順次、保育現場で幼児教育を担っていただくことになるので、私としても、このようなアンケート結果が気になるころなので質問をした。

○事務局

幼児教育の場合、質が上がっているか、下がっているかということの

質の測り方は、大変難しいところがあります。幼児教育に対する「評価」というものをどのようにしていくか内部で考え、検討しているところです。幼児教育センターの取組について教育委員会にも理解していただけるようにしていきたいと考えています。

○委員

今回、つまこども園の先生方が公開保育の準備や当日の大学の先生の指導等を受けられたということですが、また、次の年に指導を受けられた先生方がどう変わっていかれたかということ进行分析することも大切なのかなと思いました。研修の受講回数のカウントも大切かもしれませんが、日々の保育の中でどのように生かしていくかなどが大事なのではないかと考えます。学校では自己評価、学校評価がされていますが、そのようなかたちの評価も大切なのではないのでしょうか。また、質の向上には、専門性を高めていくことが大切なのではないかとも思いましたので、先生方が自己研さんして改善し、よりよくしていくことが大切なのではないのでしょうか。

○委員

保育園から認定こども園に変わりましたが保護者の世代が違うので、普段、聞くことが少なく、どのように変わってきているのかということが把握しにくくなっています。今回、このアンケート調査結果を見せていただきましたが、先生方が交流研修をしながら試行錯誤しながら取り組まれていることが伝わってきました。また、幼児教育センターの先生方がこれまで培ってこられた西脇の教育を受け継いでもらおうとされていることも伝わってきました。すぐには難しいと思いますが、アンケートの中にある「5つの領域、10の育てたい姿を意識することができた」というふうに認定こども園の先生方が頑張っておられることもよくわかり、ありがたいと思いました。私自身、保護者の立場としてもお世話になりましたが、やはり家庭の方でも園や先生方に協力、努力していかなければならないのかなとも感じました。

◎市長

これまでのご意見に対して、幼児教育センターの方から何かありますか。

○事務局

私たちとしても、認定こども園の中に入るまでは、いろいろと分からないことが多かったのですが、昨年度から中に入らせてもらうことでそれぞれの園の思いであったり課題であったりが見えてきました。市立幼稚園でやってきたことが全てよいとは言えませんが、幼児教育に対して責任を持ってやってきた自負がありますので、そのあたりはしっかりと伝えていきたいと考えています。

○委員

私も他の委員さんと同じで、公開保育の感想をいただいておりますが、特に一番よかったのは、「幼児教育に対する理解が深まった」というところです。また、「子どもの成長の段階として全てがつながっているとわかり、また、再認識をした。」とあり、そこに凝縮していると思います。以前にも学力向上でもありましたが、小学校の1、2年生の時に落ち着いて勉強していると、その後の小学校3年生以降の学力向上に繋がっていくとよく言われています。1、2年生の時に落ち着くということは、そのためには、就学前教育を行う幼稚園や認定こども園での生活が一番大事だと思います。大げさな表現ではあるかもしれませんが、教育の1丁目1番地と言っても過言ではないという気がします。このアンケートを見せていただいて、順調に取り組まれていることがわかり安心しました。

◎市長

これまでのご意見に対して、事務局の方から何かありますか。

○事務局

様々なご意見ありがとうございます。公開保育を行った園にとどまらず、他園から参加された先生方にも同様に幼児教育に対する取組を行っていただきたいと考えています。また、公開保育の中でも大学教授の先生からもそのように広めていくような指導助言も行っていただいておりますので、園に戻られて各園の先生方にも広めていただきたいと思っています。そのようなことを踏まえて市内全域に広がっていくように努めていきたいと考えています。また、先ほどのご意見の中にありました、「次の年に指導を受けられた先生方がどう変わっていかれたかということ」を分析することも大切である。」とのことについては、幼児教育センター長からもありましたが、評価自体はなかなか難しいですが、園の取組を評価していかなければならない中で先生方の意識を確認していくことも大切だと考えていますので、アンケート調査などで確認していければと考えています。

○事務局

補足になりますが、評価が難しいということで予算措置等の関係もあって、今年度の実施は難しいのですが、現時点では調整中で来年度以降については、大学教授などの学識経験者のような外部の方に入っていたら評価を行うことを検討しています。

◎市長

来年度に向けての重要な話がありました。大学教授などの外部の方に入っていただく委員会を立ち上げて認定こども園や幼稚園も同じ基準で評価を行うこと、この場合、幼児教育が基準となると思うのですが、外部からそれぞれの現場の評価を行ってもらい、課題等を洗い出し、強み、弱みをそれぞれが確認しながらよりよい幼児教育としていきたいという

ことだと思っています。

○事務局

評価の仕方については、いろいろな手法があると思いますので、そのあたりも検討しながら進めていきたいと考えています。

○教育長

アンケート調査の結果について、今後の分析にも利用できるような工夫をしてもらいたい。その資料をもって現場の先生方も振り返りができるようなかたちにするので、今後の幼児教育への取組に役立つのではないかと考える。

◎市長

今の教育長の考えに対して、事務局はいかがか。

○事務局

資料作成にあたって簡略化することも考えましたが、生の声を明記した方がよいのではないかと考え、このようなかたちにしました。見直しを行い、翌月中には改善します。

○委員

キャリアアップ研修や公開保育など様々な研修をされて認定こども園の先生方は、理解が深まっていると感じました。先ほど言われていました評価の件ですが、通常定例教育委員会でも言っていますが、行政が私立に対してどこまで指導助言ができるのか、とても難しいのではないかと考えています。それぞれの認定こども園がそれぞれのかたちで教育・保育を行っている中で、うまくリンクさせていければよいのですが、行政が強くなり過ぎると現場の理解を得にくいのではないかと想像します。また、研修への参加人数が少ない認定こども園があることも聞いたことがありますので、公開保育やキャリアアップ研修などの機会にはそれぞれ忙しいとは思いますが、できるだけ多く参加していただき、特に公開保育の際には他の認定こども園から1名から3名は必ず参加していただけたらと思います。そして、それぞれの認定こども園に持ち帰っていただいて、難しいとは思いますが、研修成果を広めていただければよいと思います。質の向上に向けてスピード感を持ってやってはいかなければなりません。一方で焦りは禁物でもあり、また、評価も大切でいろいろな手法もありますので、西脇市が目指す幼児教育を念頭に入れて冷静に取り組んでいけばもっとよくなるのではないかと考えています。

◎市長

大変ポイントを突いた提言であったと思います。確認をしたいのですが、公開保育で26名の参加者があり、うち16名がつまこども園の先生で残り10人が他の認定こども園の先生と幼稚園の先生ということで、ほとんどの認定こども園は1名のみ参加ということですね。また、公開保育は1年度に1園ですが、すべての園が公開保育を受け持つには8年か

かることとなりますが、このことに関して担当の方では、どのような考え方でいますか。

○事務局

基本的には、全園で行うことで計画しており、また、順番も決めています。

◎市長

評価について先ほど教育部長からもありましたが、委員が言われた「行政が私立に対してどこまで指導助言ができるのか。」ということについては、事務局はどのように考えているのか。

○事務局

この評価とは別になりますが、既に今年度から実施しております運営に関する確認監査があり、経営等に行政が関わる仕組みがあります。この幼児教育に対する評価については、別建てで行うこととなりますが、どこまでということもありますが、同様に、認定こども園と連携しながら現場に入っていきたいと思っています。

◎市長

どこまで関われるかということは、なかなか難しい問題がありますが、本市にとって就学前の教育・保育については、認定こども園が最後の砦となりますので、市としても関わらなければなりません。時には、怒られても言いにくいことも言わなくてはならない。本音をぶつけ合うことがないと教育や保育の質の向上にはつながらない。市行政としても厳しいことを言う覚悟を持ってやらないといけないと思っています。

○委員

評価というのは、一般的に言えば顧客満足度になるのかなと考えます。その場合、誰が満足するのかということを考える必要がある。評価が高くて行政が満足するのか、園に通わせている保護者が満足するのか、教育・保育を受けている子どもが満足するのかで変わってくると思いますので、どこを目標にするのかを聞きたいです。

○事務局

基本的には、カリキュラムを基準にした評価になります。これについては、満足度ということで表現すれば、当然、市が満足するものではなく、就学前教育・保育の環境が変わったことで、不安に思われている保護者もおられますので、基本的には保護者の方の満足度をあげるものになると思います。

◎市長

それでは、次に入りたいと思います。次第2の協議・調整事項(2)、「第2次西脇市総合計画及び第3期西脇市教育振興基本計画について」を事務局から説明をお願いします。

————— [説 明…記述省略] —————

◎市長

説明が終わりました。何かご質問ありますでしょうか。

◎市長

特にないようですので、本事項につきましては、制度や概要の説明ということ、また、策定作業中で審議会での審議もあり今回は進捗の報告ということでもありますので、次にいきたいと思います。また、何か気が付かれたことがあれば後ほどにお願いします。次に、次第2の協議・調整事項(3)、「平成31年度教育委員会主要施策の概要について」を事務局から説明をお願いします。

————— [説 明…記述省略] —————

◎市長

全体を通じて、何かご質問、ご意見はありますか。

○委員

「にしわき学力向上事業」の中で、特に「つまづき」にスポットを当てていただきありがたいと思います。また、「特別支援教育推進事業」では、介助員の配置や相談事業、巡回訪問などこれまで以上に充実した施策を考えられていることは大変ありがたいと思います。

○委員

資料1 ページの「認定こども園補助事業」の中にある「事故防止推進事業」とありますが、これはどのような事業内容なのでしょうか。

○事務局

本事業につきましては、保育教諭の午睡チェックを補助するための機器の購入事業を行う認定こども園に対し補助を行う事業を予定しています。午睡チェックは、乳幼児のお昼寝時の「乳幼児突然死症候群」を防止するために保育教諭が見回りを行うものですが、睡眠センサーを装備した機器を設置し、その業務の負担軽減や事故の防止に努めることができます。なお、本事業につきましては、国の補助金を活用した事業となります。

◎市長

既に、園の努力で導入されている認定こども園もあると聞いています。

○委員

全体的なことになりますが、4 ページの総合計画の施策で「教職員の資質向上を進めます」とあり「現状と課題」の中で「増加する若年教員等の指導力の向上」や「時代に応じた教育課題に即応できる指導力の向上」とありますが、英語や道徳が入ってきて、次は、プログラミングと先生方の負担が増えてきていますが、これは、イコール、子どもたちへの負担も増えてきているとも言えます。「脱ゆとり教育」から、今度は「つめこみ教育」になってきていると感じています。そうなった場合に、本当についていけなくなった子どもたちをどうカバーしていくのかとい

うことが課題として出てくると思います。一方で、今日、ニュースでも報道されていましたが、多くの先生方が心の病で休まれている現状もあります。これらを踏まえて、その分、人を入れるとお金がかかるが、教育は人が人を教えなければならないので、トータル的にバランスを考えていかなければならないのではないかと思います。来年度の事業を計画しておられますが、負担は掛かるがそれを感じないような方策も考えていかないと誰もが疲弊していくのではないかと心配します。

○事務局

委員が言われたとおりで、担当する事務局の指導主事がそれぞれ研修計画を立てているとバランスが悪くなりますので、課として全体のバランスを考えながら体系的に研修計画を立て、特化する教科は特化するなどメリハリをつけ、研修のための研修で終わらないように整理しながら進めるとともに研究もしていきたいと思っています。

◎市長

昨日、「がんばる先生応援事業」の中間報告会が開催されまして、「英語」と「道徳」と「学級づくり」の報告がありましたが、私は「英語」の報告を見させていただきました。非常にレベルの高い研修を先生方自身でされており、途中、代表校長の笹倉校長が、「こんなレベルの高いことをやっていてすごいね。」と他の市町の先生方から言われる、ということをおっしゃられていました。比較的若い先生方が多く、「やらされ感」がなく意欲的に取り組まれており、すごく心強く感じられました。来年度も引続き取り組んでもらいたいと思いました。このような西脇市の特有の事業で、報告を見てとても効果がある事業だと思いました。

○委員

5ページの「子ども多文化共生サポーター派遣事業」で、「日本語指導が必要な児童生徒にサポーターを派遣する。」ということで、スペイン語と記述があります。市内で買い物をしている時など、いろいろな外国人の方を見かけますし、また、若い世代が多いと感じています。これからも、ますます外国からたくさん来られるのではないかと思いますし、学校現場でもこのような支援が必要なのだなと思いました。

○事務局

これから日本語指導を必要とする児童生徒が増えてくると想定されます。日本で暮らす期間が1年未満の児童生徒につきましては、県教委の派遣事業で、2年以降は、市の派遣事業とし県教委と連携し事業を行っています。このような児童生徒が困らないよう取り組んでまいります。

○委員

やはり言葉が分からないと勉強が大変だと思いますので、是非、継続して事業を行っていただきたいと思います。

○委員

少子化などの社会情勢の変化によって児童生徒が減少していくことに対応するために、4ページに記述のあります小中一貫教育など適正な学習規模について、遅かれ早かれ検討していく時期に来ていると思いますので、いろいろな人の意見を聴きながら取り組んでいただきたいと思います。

○事務局

「適正な学習環境規模の検討」のところになりますが、学校施設などのハード面については、教育総務課が所管し、教育に関するソフト面については、学校教育課が所管するなど、教育委員会での取組になることから現時点においては、教育総務課を主としています。現在、内部で話をしている中では、小中一貫教育の導入につきましても、表現は好ましくないかもしれませんがメリットやデメリット、また、十分に効果が測れていないところがありますので、導入の可否を含めて検討していかなければならないと考えているところです。この適正化につきましても、持続可能な学校運営のために学校施設の維持管理や教育システム、指導体制など総合的に考えていく必要があると考えています。現時点では、具体的に説明できるところまでの整理はできておりません。また、近隣市町の状況も見ながら西脇市としてよりよいかたちで進めていく必要があると考えています。あと報告ですが、教育委員会内のプロジェクトチームを11月に立ち上げ、取り組んで行こうとしているところですので、また、ご意見、ご協力をお願いいたします。

◎市長

近隣市町で一番進んでいるのは、どこになりますか。

○事務局

いろいろな観点がありまして、小中一貫教育ということであれば、小野市と思われそうです。適正な学校学習規模配置ということであれば、三木市と加東市、最近でしたら丹波市も動いているところです。あと、市長からも教育委員会としての考え方等をまとめるようにとも言われていますので、取り組んでまいりたいと考えています。

◎市長

他、委員さんの方から何かありませんか。

○委員

昨日、「がんばる先生応援事業」の中間報告会を見学しましたが、中学校の先生と小学校の先生が一緒になって研修されていました。そのようなところを見て、児童生徒が小学校から中学校にあがる際に、環境の変化への対応やつまずきがなくスムーズに学習できるためには、先生方が互いにコミュニケーションをとることで、小中学校の連携がうまくいくのではないかと感じました。これは、幼稚園、認定こども園から小学校も同様に連携して子どもたちの学習環境づくりをしていただけたらと

思います。

◎市長

このご意見に対して学校教育課の方から何かありますか。

○事務局

小中の連携につきましては、大きなところでは、先ほどの学校学習環境規模の適正化とも関連します。この課題解決には、小中一貫教育を含めた何らかの方向付けが必要であると考えています。市民の皆さんへ現状の学校の状況などを周知することも必要ですし、方向付けには内部だけではなく地域や保護者など外部の方のご意見をお聞きしながら全体的に進めていく必要があると考えています。近隣では、小野市が近隣の小中学校が連携する校舎分離型の小中一貫校を順次、市内の学校区で進めようとしています。また、加東市においては東条地区において、校舎を新たに設置して校舎一体型の小中連携校を設置し、社地区、滝野地区へと順次進めていく計画となっています。あと、三木市においては、小学校の統廃合を優先的に進め、最終的には5つの校区に義務教育学校を配置していく方向性で進めていく計画となっているようです。加西市においては、特に動きがなく、多可町では、八千代区の小学校を統合され、順次、町域内で統廃合を進めていくものと思われます。西脇市の現状としては、先ほどありましたとおり、これから進めていくという状況でございます。

◎市長

最後に何かありますでしょうか。

○委員

先日、神戸新聞に掲載されておりました「学問に王道なし、本物の学力とテストでの得点力との関係」という記事を見ました。この記事から、例えば、一夜漬けが得意でテストの点数を取れる子もいれば、日頃の授業の中で楽しく学習し、すぐにはテストの点には結びつかなくても学力をじっくりと身につけていく子とかがいると思います。西脇市では、学力向上事業に取り組んでいますがこの記事を見て西脇市の子どもたちの中で何パーセントぐらいの子たちが「本物の学力」が身につけているのかなと思いました。学力を測るうえでは、もちろん点数は必要なのですが、「本物の学力」という観点から考えると、目先のテストでの得点力を追いかけることがいいのかどうかと単純に思いました。

○事務局

大変、難しい質問ですが、普段の子どもたちの言動や行動の中で、学びを理解できて楽しいとか、この学びが好きだということで集中して取り組んで自分自身に自信を持っていく姿を見ると、得点も大事なのですが、非認知を含めた指導の中で全体的な学力を身に付けさせることも大切なのではないかと思います。

◎市長

長時間に渡り、ありがとうございました。また、今回いただいたご意見などを参考にしてまいりたいと思います。最後に私の方から少しお話をさせていただきます。前半に事務局の方からスポーツで活躍する若い世代の話がありましたが、学力などの方でも頑張っている子どもたちがいます。西脇南中学校の生徒が科学甲子園の全国大会に出場したこと、また、西脇東中学校の生徒が全国の93万点の人権作文の作品の中からベスト6位に選ばれる子どもたちが出てきていることをうれしく思っております。ほかに意見がないようですので、意見交換を終わります。事務局からの連絡事項はありますか。

○事務局

本日、協議していただきました内容に関連いたします来年度の主要施策で、予算が必要な施策の見積額等につきましては、本日の教育委員会定例会において報告させていただく予定としております。今年度の総合教育会議につきましては、緊急の場合を除いては、本日をもって終了の予定としております。

また、来年度の総合教育会議につきましては、今年度と同様に2回程度の開催を予定しておりますが、開催時期等、詳細が決まり次第、ご案内をさせていただきますのでよろしくお願いいたします。以上です。

◎市長

それでは、これをもちまして、平成30年度第2回総合教育会議を閉会いたします。お疲れ様でした。

————— 閉 会 —————